様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ３ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０４６３

研究課題名（和文）新出マニ教絵画を援用した中世イラン語の研究

研究課題名（英文）Middle Iranian studies based on the Manichaean paintings recently discovered in Japan

研究代表者
吉田　豊（Yoshida, Yutaka）

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：３０１９１６２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：近年筆者は日本において14世紀頃中国江南で制作された8点のマニ教絵画を発見した．それらははマニ教の宇宙論や終末論を絵画化したものや，マニの伝記を描いたものである．これらはマニ教研究にとって重要な資料となるでだけなく，中世イラン語のマニ教文献の解明にも資するものである．というのも中国のマニ教は，7-8世紀頃イラン語圏から伝道されたものであり，これらの絵画は究極の情報源であった中世イラン語で書かれたマニ教文献の内容と密接に関連しているからである．この3年間の研究の成果として，こららのマニ教絵画の精密なカラー図版と，それらの絵画の内容とイラン語のテキストとを比較した研究を一冊の本にまとめて発表した．

研究成果の概要（英文）：Quite recently I have been able prove the Manichaean affiliation of no less than eight Chinese paintings that have been preserved in Japan. Their style suggests that they were produced by the Manichaeans of South China around the 14th century and imported to Japan as Buddhist art objects. They are interesting not only from the art historical point of view but also from the Middle Iranian philology, because the scenes and details of these paintings are based on the Manichaean teachings and cosmology. Manichaeism became extinct long ago and the considerable part of our present knowledge has been acquired during the last hundred years of studies of the Manichaean Middle Iranian texts discovered in Chinese Turkestan, although there remain many obscure words and expressions in these texts. In this study I compared the two groups of materials and tried to show how the one contributes to the understandings of the other.

研究分野：言語学

キーワード：マニ教　中世イラン語　シルクロード　寧波絵画　トルファン　ソグド語　歴史言語学　ウイグル

１．研究開始当初の背景

(1) 筆者は，2007 年 4 月，日本国内に，14 世紀頃の中国江南で製作されたマニ教絵画が存在することを発見した. 中国江南には 10 世紀以降非常に多くのマニ教信者がいたことは，東洋史学者によって明らかにされていたが，これらのマニ教信者が使っていた絵画が，現に存在していることは世界で初めての発見であった．筆者は，その絵画がマニ教絵画であることを証明するとともに，描かれている内容と中世イラン語のマニ教文献から知られているマニ教の教義を比較した．そしてその成果を英語と日本語で発表した．これは海外の研究者にも注目され，申請者の研究に基づき，さらなる研究が発表されることになった.

(2) 日本でのマニ教絵画の発見は新聞報道され，その記事を読んだ読者からの情報により，類似の絵画がこれ以外にもまだ日本に存在することが判明した．筆者の調査によりそれらも同様のマニ教絵画であることが明らかにされたが, その数は 2011 年の段階で実に 7 点に登った．それらには一定の共通した特徴や相違点があることが判明し，これら計 8 点のマニ教絵画を，各方面から総合的に研究する必要性が感じられた.

２．研究の目的

(1) 従来マニ教絵画と言えば，中国の内陸部のオアシス都市の遺跡（トルファン）で発掘される，ごく小さい断片が知られていただけであり，情報量はわずかであった．一方，ほぼ完全に保存された江南マニ教絵画は，マニ教の教義や，布教の歴史を非常に詳しくさらに正確に伝えていることが明らかになった．従って，これらの絵画と，マニ教文献，とりわけ申請者が専門とする中世イラン語のマニ教文献とを比較することは，両者の解明に大きく貢献するものと期待された.

(2) 一方で，トルファンで発見されたマニ教絵画の断片には，内容が十分に特定できないものが多く，日本にあるマニ教絵画と，トルファンで発見される中世イラン語のマニ教文献を利用して，それらの十分解明されていない絵画断片の内容を特定することも出来るのではないかと思われた.

(3) そのような視点に立って，江南マニ教絵画，トルファン発現のマニ教絵画，トルファン出土のマニ教文献を比較対照しながら，新事実を発見することが本研究の目的であった.

(4) この間に，中国の福建省で，中華民国の初期までマニ教を信仰していた人たちの残した文献が発見され，それらの内容もまた江南マニ教絵画の解明に役立つものと期待された.

３．研究の方法

(1) 研究の方法は単純で，上記の 4 種類の資料を詳しく研究し，描かれている内容や，文献に書かれた内容を言語学とマニ教学の知識を総合して読み解くことと，得られた新しい知見を他の資料の解明に利用するというものである．4 種類の資料を相互に独立して見ていただけでは分からない事も，この手続きによって明らかになるはずである.

(2) マニ教はシルクロードを通じて中国にも伝わったが，本来メソポタミアで興った宗教であり，イスラム化以前のエジプトを含むキリスト教世界にも広まった．そのような背景からキリスト教学者や，エジプトで発見されるマニ教コプト語文献の研究者との連携によって，新しい発見をすることが可能であるはずである.

４．研究成果

(1) マニ教絵画の内容の究明は，期待通り着実に進んだ．また従来解明されていなかった, トルファンマニ教絵画の断片の内容を，江南マニ教絵画と，イラン語文献の読解をもとにして明らかにすることもできた．そして，本研究期間内に，それらの成果を一冊の研究書にまとめ出版することができた（『中国江南マニ教絵画研究』京都 2015）．この本の出版により，マニ教絵画研究は新しい段階に入った．さらに，この本の読者によって，新たなマニ教絵画が日本において発見されることが期待される.

(2) 福建で発見された，清朝時代に漢文で書かれたマニ教文献の研究では，トルファンでみつかる中世イラン語マニ教文献に残された讃歌と同じ讃歌が，漢字の発音を使って音写されていることを発見することができた．しかもそこで音写に利用されている漢字音は，唐の初期の時代の発音であり，中国マニ教史，漢語の音韻史にとっては極めて重要な発見になった．この成果は国際マニ教学会で発表するとともに，英語論文として公表されるはずであるが，この間にこの発見の重要性が広く認知され，いち早く中国語訳が出版された（馬小鶴（訳）「霞浦摩尼教文書『四寂讃』及其安息語原本」,『国際漢学研究通訊』（Newsletter for International China Studies）No. 9, 2014, 103-121）. 福建の漢文資料にはまだ多くの類似の文献があるので，それらの研究も進むことになるであろう.

(3) 筆者の一連のマニ教に関する研究は，多くの人の知るところとなり，未発表の中世イラン語のマニ教文献の所蔵者から，当該の新資料の提供を受け，それがマニ文字表記の中世ペルシア語の讃歌であることを明らかにするとともに，解読の成果を研究論文として発表した.（「敦煌秘笈中のマニ教中世ペルシ

ア語文書について」『杏雨』17, 2014, 1-8）これは敦煌文書として整理保管されていたが，実際にはトルファンで出土した文献であることも明らかになったが，これにより，日本に保管されている敦煌・トルファン文書の入手経路についても，重要な示唆が得られることになった．

(4) なお，筆者の一連の新資料発見と研究が高く評価され 2014 年 7 月には，英国学士院の客員会員（Corresponding Fellow）に選出された．

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　15 件）

(1) Yutaka Yoshida, "Southern Chinese version of Mani's Picture Book discovered?", in: Siegfried G. Richter, Charles Horton, and Klaus Ohlhafer (eds.), *Mani in Dublin. Selected papers from the seventh international conference of the International Association of Manichaean Studies in the Chester Beatty Library, 8-12 September 2009,* Leiden / Boston, Brill, 2015, 389-398 with figures 22.1-22.12 on pages 439-446.

(2) 吉田豊，「漢語仏典と中央アジアの諸言語・文字―中性イラン語，特にソグド語仏典の場合」新川登亀男（編）『仏教文明の転回と表現　文字・言語・造形と思想』東京，勉誠出版 2015(3/20)，24-51.

(3) Yutaka Yoshida, "A handlist of Buddhist Sogdian texts", 『京都大学文学部研究紀要』 *Memoirs of the Faculty of Letters Kyoto University* 54, 2015, 167-180.

(4) 吉田豊，馬小鶴（訳）「霞浦摩尼教文書『四寂讃』及其安息語原本」，『国際漢学研究通訊』（Newsletter for International China Studies）No. 9, 2014, 103-121.

(5) 吉田豊，「中世イラン語と中古漢語――「沙に消えた中国語」をめぐって――」東方学研究論集刊行会編『高田時雄教授退職記念東方学研究論集』京都：臨川書店 2014, 294-302.

(6) 吉田豊，「敦煌秘笈中のマニ教中世ペルシア語文書について」『杏雨』17, 2014, 1-8.

(7) Yutaka Yoshida, "When did Sogdians begin to write vertically?", in: Tokyo University Linguistic Papers 31, Festschrift for Professor Hiroshi Kumamoto, 2013, pp. 375-394.

(8) Yutaka Yoshida, "New Turco-Sogdian documents and their socio-linguistic backgrounds", in: Academia Turfanica (ed.), *The history behind the languages. Essays of Turfan forum on old languages of the Silk Road*, Shanghai 2012, 48-60.

(9) 吉田豊，「マニの降誕図について」『大和文華』124 号，2012, 1-10.

〔学会発表〕（計 12 件）

(1) Yutaka Yoshida, "Turkish rule of Semirech'e before Islamization", International Symposium on Sogdian-Turkic Relationship, 2014 年 11 月 22 日, Istanbul (Turkey) イスタンブール（トルコ共和国）

(2) Yutaka Yoshida, "Sogdians in Khotan: Some new interpretations of the two Judeo-Persian letters from Khotan", The 2nd International Conference on the Silk Rpoad: Sogdians in China: New Evidence in Archaeological Finds and Unearthed Texts, 2014 年 8 月 14 日, 銀川（中華人民共和国）

(3) Yutaka Yoshida. "Middle Iranian terms in the Xiapu Chinese texts", 8th International Conference (International Association of Manichaean Studies), 2013 年 9 月 11 日, ロンドン（英国）

(4) Yutaka Yoshida, "The tree model and the study of dialects of a language that is no longer spoken: A case study of the eastern group of Middle Iranian languages", International Symposium: Let's talk about trees, 2013 年 2 月 10 日, 国立民族学博物館（大阪府吹田市）

〔図書〕（計１件）

(1) 吉田豊，古川攝一，泉武夫，Zs. Gulacsi, Kosa Gabor, 『中国江南マニ教絵画研究』京都 2015, 179

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
吉田　豊（YOSHIDA, Yutaka）
京都大学・文学研究科・教授
　研究者番号：30191620

(2)研究分担者
(　　)

　研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

　研究者番号：